記者発表資料

令和７年９月２６日
独立行政法人水資源機構

「2024年　水質年報」を作成しました

独立行政法人水資源機構では、良質な水の提供に向けた取組として、貯水池等の機構施設の水質調査を日常的に行い、水質状況を把握しています。

この水質調査の結果をとりまとめ、機構施設の水質状況について、広く国民の皆様に知っていただけるよう、毎年、水質年報を作成し、公表しています。

「2024年　水質年報」には、機構の管理施設における2024年の水質状況、水質の経年変化、水質保全の取組等を掲載しています。

「2024年　水質年報」は、本日より水資源機構のホームページでご覧いただけます。

発表記者クラブ：　国土交通記者会、水資源記者クラブ、竹芝記者クラブ

お問合わせ先 ： 経営企画部環境課　大作、島本
電 話：０４８（６００）６５５５（環境課）

（別紙）

「2024 年 水質年報」の概要

１．「2024 年 水質年報」について

水資源機構では情報発信の一環として、毎年水質年報を作成しています。機構が管理するダム、堰、用水路施設の水質の状況について、水道事業者などの利水者や行政等の関係者をはじめ、広く国民の皆様に知っていただけるよう、水資源機構ホームページで公表しています。

「2024 年 水質年報」は、2024 年に機構が実施した定期水質調査結果や水質の経月・経年変化、水質異常の発生状況等をとりまとめたものです。

なお、水資源機構では、平成 16 年に「平成 15 年 水質年報」を作成し、以降、毎年作成しています。

２．「2024 年 水質年報」構成と水質等の状況

水質年報は、第Ⅰ編「概要」、第Ⅱ編「個別施設の状況」、第Ⅲ編「水質調査結果データ集」で構成しています。

第Ⅰ編は、各施設の調査実施状況、気温と降水量の概況、全体的な水質概況（主要項目の経年変化、水質異常・水質事故の発生状況）、水質保全への取組等について、とりまとめています。

○ 2024 年の水質の概況

・各施設における主要な水質項目（BOD・COD、全窒素、全りん、クロロフィル a、SS）の過去 20 年の経年変化は、全窒素で改善傾向がみられました。その他の項目は一時的に高い値となった施設もありますが、全体としては概ね横ばい傾向でした。

○ 水質異常の発生状況

・2024 年は、機構が管理している 54 施設中 22 施設で植物プランクトンの異常発生や濁水長期化が確認されました。

・植物プランクトンの異常発生数の内訳は、アオコが 13 施設、淡水赤潮が 8 施設、水の華が 1 施設、異臭味の発生が 3 施設でした。また、濁水長期化は、出水による濁水の流入等により、3 施設で発生しました。

アオコ：湖面が緑色に着色（藍藻が優占）、淡水赤潮：湖面が黄色～赤色に着色
水の華：アオコ・淡水赤潮以外の湖面の着色
異臭味：貯水池等で臭気物質が高濃度で検出された場合、あるいは利水者などから連絡があった場合
濁水長期化：貯水池の流入濁度＜放流濁度となり、下流河川への放流濁度 10 度以上が 1 週間以上、継続した場合

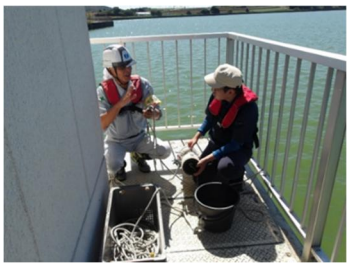
※ **複数の水質異常が発生した施設があるため、水質異常が確認された施設数と内訳の合計数は一致しません。**

○　水質保全への取組

巡視（浦山ダム）

水質調査（奈良俣ダム）

水質事故対応訓練（草木ダム）



水質調査機器使用訓練（豊川用水）

第Ⅱ編「個別施設の状況」は、機構の管理施設（全 54 施設）毎に以下の項目についてとりまとめています。

1．施設諸元
2．水質基本情報
3．水質調査の実施状況
4．水質の概況
5．水質調査結果
6．水質の経月変化
7．水質の経年変化
8．水質異常の発生状況
9．水質対策保全設備

第Ⅲ編「水質調査結果データ集」は、各施設の水質調査結果（第Ⅱ編「個別施設の状況」に非掲載のデータを含む）をエクセルファイルに整理しています。

水資源機構　水質年報　検索